

分散会 3

司会者 仲村 康子
記録者 上田 謙
会場責任者 長尾 真二

島根県邑南町

子育て・日本一の公民館を目指し、映画制作を通して、人づくり、まちづくり、地域づくりを実践している。映画「ぼくらの時代劇」は、地域にある小学生4～6年生を対象にして、1泊2日の日程で、自分たちで映画制作を行う事業である。地域の劇団、ケーブルテレビ会社、ふるさと学芸員の方々から、演技、カメラワーク、時代背景などの指導を受け、役者、カメラマンなど、すべて子どもたちで行う。さらに、地域の方々がボランティアとして、食事、衣装、小道具作りなどに参加する。その中で、子どもたちは、人々との交流、新たな自分への気付き、他者への関わりかたなど、様々な面で成長することができている。また、様々な分野の人たちが映画制作をサポートすることで、地域が一体となることができた。課題としては、参加者の拡大、ボランティアの育成が挙げられる。



小笠原 美穂子 氏

秋田県北秋田市

北秋田市では、「いかに、まちに活気を取り戻すか」をテーマに、3つの柱である「おらほ（わたしたち）の地域応援し隊の拡充」「高校生を中心にした若者による地域経済の活性化」「高齢者のアクティブシニア活動」に取り組んでいる。高齢者と保育園児、小学生との積極的な交流事業、高校生による料理コンテストや特産品の開発、若者のための学び支援プログラム、次代への継承と高齢者による課題解決を目的とした「Gちゃんサミット」の開催などを実践した結果、少しずつであるが、各公民館の利用者や、地域活動への感心が増え、心身ともに健康的な高齢者の増加を目指して、青森県や秋田県と連携するなど、今までにない成果が得られた。



松田 淳子 氏

愛媛県双海町

地域で活躍するジュニアリーダーの育成を目指し、様々な事業を展開している。特に、「双海町こども教室」における中高大学生の「双海町ジュニアリーダー会」は、ここ数年で、事業のプログラムの一部を企画運営するまでになり、人づくりや地域づくりに大きく貢献している。双海町こども教室は地域の小学生を対象に、こんにやく作りやじゃこ天作り、じゃがいも植えなど地域の素材を生かした体験活動を実施し、毎年多くの参加者が集まる。参加者の卒業生の中からは、ジュニアリーダーとして、参加していた側から企画運営をする側に移行する子もおり、次世代のリーダー育成にもつながっている。また、地域の協力体制も整っており、様々な面で人や物のサポートをしていただいている。学校



赤石 雅俊 氏

との連携も構築でき、弁論大会や海外派遣研修等、ジュニアリーダーの学校での活躍も見られるようになった。

分散会内容

公民館やNPO法人の役割

松山市八反地では、地域の方々が大変協力的で、地域ぐるみで子どもを育てている。ホテルのまちづくりや公民館との運動会など、学校だけではできないもでも、地域の方々のおかげで実現ができる。地域から様々なチャンスをいただいて活動しており、貴重な体験の場を提供していただいている。

地域ならではのよさを生かし、公民館にしかできないことがあるはずである。双海町では、「双海町こども教室」の中で地域内八十八カ所巡りを行った。宗教的な内容がからむ内容は、学校としては取り入れにくい、公民館なら事業化しやすい。身近なところに素材がたくさんある。

様々な人が、様々な考えをもっている。学校と地域の教育観をどうすり合わせればよいか課題。地域からは「学校はかたい」「学校に子どもがいない」などの声が聞かれる一方、学校からは「家庭の事情がある」「核家族化も進み、いまの家庭は、自分だけの子育て観しかない」など、学校と地域の声を聞くことで、互いの考えていることが初めて分かる。そこに大切な何かが見えてくるのではないかと考えた。そこで、長野県飯田市公民館では、通学合宿の事業を実施した。地域の人たちに協力を得て、様々な経験をすることで、学校、家庭、地域がつながっていくと思う。それが公民館の役割ではないかと考える。

大学生を中心として構成されているNPO法人「おのみち寺子屋」の活動も学校や公民館等と同じで、子どもたちの健全育成を目的としている。アプローチは違うが、NPO法人ならではの事業を企画運営していくことが可能である。小学生の「生きる力」を育むとともに、大学生の「生きる力」育んでいるので、継続していく重要性を感じている。自分自身も地域や教育に関わっていき、自分たちのまちをつくっていききたい。

まちづくりを担うジュニアリーダーの育成が必要である。様々な事業を通して、子どもたちの成長と同時に、大人も成長している。

教員の立場から考えると、社会教育は、学校教育を補完しており、大変ありがたい存在である。手段は違えど目的は同じである。学校、地域のよさを十分に発揮して、将来を担う子どもたちの育成を図っていききたい。

事業の継続について

行政なら、職員の資質向上を目指すことが重要となる。各公民館の事業は、公民館主事の個性に負うところが大きい。しかし、公民館主事は、数年で異動になるため、常に基本的な柱を再確認（PDCA）することが大切だ。

目的をはっきりしておくことが重要である。続けることが目的になるといけない。「やめる」選択肢をもっておく必要がある。

学校でも事業でもそうだが、持続していくためには「地方創生」を含める必要がある。市町、県と融合することも重要であり、「楽しい」要素を常にに入れていく必要がある。

次世代の視点

ユネスコ部に所属しているが、日々、先輩方の活動が勉強になっている。現代社会の中で課題とされている、少子高齢化、経済格差などの諸問題を解決するために、どうすればいいか、どう行動すればいいかなどを話し合える場がほしい。今後は、若者が中心となって未来をつくることが重要で、自分自身、その一翼を担っていきたい。

その他の具体的実践例

新居浜南高等学校ユネスコ部では、別子銅山のボランティアガイドをしている。来県されたペルー大使もガイドすることができた。先輩の活動をしっかり見て、喜んでもらえるガイドになりたい。



NPO法人「おのみち寺子屋」は、広島、岡山県の大学生を中心として、子どもたちの健全育成、地域コミュニティへの参画を目的として活動している。スタッフである大学生は、1月から研修を始め、「感動・成長」をテーマに、様々な事業をプロデュースし、全国19カ所

で開催することが。小学生を対象とした4泊5日の日程で行うウォーキングキャンプ（100km）などがある。地域のイベントにも積極的に参加している。

トーンチャイムグループ「すいとてん・はと」は、地域の小学校、養護学校、介護施設で活動を行っている。子どもたちにトーンチャイムを体験してもらおうが、子どもたちの力、素晴らしい協調性があることにいつも驚かされる。

愛媛県伊予市双海町では、夏休みのキャンプや6泊7日の通学合宿を実施している。とくに通学合宿では、子どもたちの成長が見られると同時に、中高生のジュニアリーダーの成長も見られる。他にも、ピザ作り、肝試し、スタードーム作りなど、たくさんのイベントを行ってきた。どのイベントもジュニアリーダーが企画運営の一部に関わっている。

秋田県北秋田市では、東日本大震災をきっかけに防災キャンプを実施した。自衛隊に協力していただき、災害時に使用される特殊車両での炊飯体験を地域住民や保護者と一緒に行うなど、子どもたちにとって素晴らしい体験となった。学校も理解を示しており、今後も継続していく予定である。また、高校生による料理コンクールでは、地元の特産品をつかった商品開発に臨み、開発技術のサポート、食材確保、販売ルートの構築など、地元の協賛企業が増えた。行政、企業の官民一体となった活動が今後さらに重要になってくると感じている。

おわりに【青山学院大学教授 鈴木真理氏】

テーマにもなった「継続性」についてだが、継続する必要性はないと考える。生まれては消えていく事業があってもいい。「新しい発想を妨げる必要がない」のが社会教育ではないか。いい事業をすれば、それが全国に広がっていくものの、その地域だからこそうまくいくことを忘れてはならない。